

2003

06.01

Vol.58



社団法人日本建築家協会  
The Japan Institute of Architects

# NAGANO

<http://www4.ocn.ne.jp/~jia-naga/>

## -KEN CLUB

JIA 長野県クラブ

### 苦しい時だからこそ！ 会長 松下重雄

平成15年度通常総会を迎えるにあたり、常日頃当会に対しご理解とご指導をいただきております長野県をはじめ各自治体の行政機関、並びに友好関係団体の皆様方に心より御礼申し上げます。そして、引き続く厳しい経済状況下にもかかわらず、会の運営と活動に惜しみない協力をいただいている会員・賛助会員の皆様方にも厚く感謝申し上げる次第です。

昨年、JIAはCPD(職能研修制度)の実施をスタートしました。当会は、それに合わせていくつかの規約を改定し主体的な活動団体として新たな気持ちで立ち向かうことになりました。その一つは、一部特定の事務所で負担していた会費を、会員一律公平に会の運営費として負担するように切り替えたことでした。この時期、経済的な事情も手伝ってか、「地域会」のメンバーを離れていく人もありましたが、説得の努力にも限界があり残念ながらやむを得ませんでした。従って、JIAの会員ではあるが地域会の会員ではないという自由選択が生じました。JIAは、個人で本部に入会し、本部に会費を払えば資格は得られます。しかし、地域に密着した活動をするには地域会に所属した志を同じくする者の集まりがあってこそ可能になるものと確信いたします。一年を振り返りますと、いろいろと問題はありましたが、賛同して下さった多くの会員の皆様に支えられ地域活動を滞り無く終了することができました。

特に、2月に行なわれた支部事業『保存問題長野大会』におきましては、半年以上をかけての「保存問題特別委員会」と「まちづくり委員会」を中心とした皆さんの献身的な努力により、参加された本部・支部の方々にも長野地域会の結集した頑張りは高く評価していただきました。

又、4月の『学生卒業設計コンクール』審査会では、「事業委員会」の発案で、今年から学校側の先生や学生と一緒にになって建築作品について語り合える楽しい産学のオープンな公開審査の場が設けられました。

### JIA長野県クラブ通常総会



更に、『俱楽部ニュース』としてタイムリーな活動をFAX通信で送り届ける新企画を「広報委員会」が「事務局」の協力で始めました。

これらの特筆した事業や活動の原動力となったのは、昨年までの、一部の執行部が企画し委員会が実行するトップダウン体制から、委員会からの自主的な発案を開かれた「総務委員会」でオーブンに議論して決定、執行していく主体的体制への改革によってもたらされた結果と大変喜ばしく受け止めさせていただいています。

しかし、昨年度最も特筆すべきは新しい仲間が大勢増えたことではないでしょうか！はじめての女性会員2名を含む12名の若手メンバーを迎える事が出来ました。偏に、会員・賛助会員の皆様方のご協力と、当会への強い所属意識のお陰と深く感謝申し上げる次第です。

さて、JIAは永年の懸案でありました『建築家資格制度』の試行を今年度よりスタートすることになります。そこで、当会でも建築家の資格を社会的制度として確立するために、職能を広く市民に理解してもらえるように努力することを今年度の基本方針に据えたいと思います。

その上で、次の項目を重点課題に取組みますのでご協力下さい。

- ①「CPD」や「建築家資格制度」について関連団体との連携を図る。
- ②「良い公共建築をつくるための設計者選定問題」について、特別委員会を設け積極的に取り組む。
- ③「地域産木材振興」のため、特別委員会を設け積極的に取り組む。
- ④住まいづくり情報誌「愛と情熱の家づくり」第3集の発刊を目指す。
- ⑤ホームページ、会報、俱楽部ニュースの充実と効率化を図る。

苦しい時だからこそ、明るい希望と夢を抱き、励ましあい、切磋琢磨し、社会の信頼に応えるべく活動しましょう。ご指導御鞭撻のほどを！

演題「ソートフルなミニマリスト」  
建築家 北川原 温氏

# 特集／新入会員の横顔



菊池 弘之

初めまして、今年度4月より新会員となりました菊池です。よろしくお願ひします。

2年程前に、佐久市で夫婦2人きりで設計事務所を開設したばかりの駆け出しなのですが……

昨年11月に、同郷のアーバー建築事務所の山口先輩に声を掛けて頂いた時は、年会費・CPDなどが大変だと思いお断りしました。その後、12月に入って出澤 潔先生の耳に「CPDが大変なので入会しなかった」様な情報があり、その一言がどこかに触れたらしく「CPDが面倒とは、そのような輩は設計士でも建築士でもない」と一喝されたとか……。佐久市で設計をしていながら名前はお聞きしていましたが、お会いする機会もなく、おっしゃって下さった一言に半分苦く、もう半分はなんか嬉しくて、又、20代前半～6年間松本でお世話になった倉橋英太郎先生、HAL設計室の荒井さん、藤松さんに会えると思うとなんてドキドキしながらなんとか一番後ろから離されないように一生懸命ついて行くつもりです。年会費については、20数年間継続していたタバコを断ち(1月18日より)その分を回す事になっております。5月26日現在禁煙続行中(自分でもピックリ)

まだ皆さんの所にあいさつもしていません、内心オロオロしています。目が合ったら寄って行きますのでよろしくお願ひ致します。



林辺 松治

この度入会致しました林辺です。

より良い建築を目指す上で、会の活動や会員の皆様との交流が、大いに刺激になるものと楽しみにしています。

新人というにはいささかひねておりますが、どうぞ宜しくお願ひ致します。



安藤 政英

この春、新しく入会させていただきました安藤建築設計工房の安藤と申します。

生まれ故郷でもなんでも無い、青春の頃に縁があった上田の地で何かやってみたい何かできるかもしないという気持ちだけで独鉢山の麓にアトリエを構えました。

この仕事を本格的に始めたのは30歳半ばを過ぎてからです。松本の降幡建築設計事務所に入所できたのが縁でかれこれ10年あまり木造住宅、民家再生の設計・監理を経験することができ沢山のクライアントや職人さんに育ててもらいました。スタートが遅い分学ばなければならないことが山ほどあり、仕事や学習に忙しい毎日を暮らしています。

JIAが掲げる建築家職能原則「建築家は工事施工の分野とは分離し、建築の生産、流通などの経済の機構の中で独立した中立的第三者の立場を保持しなければなりません」これを原点に生活空間の改善や創造を行い、専門的能力を生活の向上や社会の発展のために発揮すること。あらゆる商業主義、作品主義を排除し真に住まい手、使い手の立場に立った「家づくり」を行う建築家像をめざしたいと思っています。



山田 健一郎

この度、JIAに入会させて頂きました山田健一郎です。

松本に生まれ育ち、東京芸大から曾根幸一・環境設計研究所と15年ほど東京で暮らした後、5年前から松本で山田建築設計室を主宰しています。

東京に出た当時、青尻の若造(まだまだ若造ですが)には、地方の建築家がイメージできませんでしたが、宮本忠長先生を始め先輩方の活躍を知るにつれ、地方在住の建築家として活動していく事を思い描くようになりました。事務所を開いてから、今は店舗インテリアデザインから・住宅・複合ビルまで、色々な仕事をさせて頂いています。これからも色々な仕事に携わりながら、時には「虫の目」になり、あるときは「鷹の目」で物事を眺めて、建築の規模に拘らず細心とおおらかさを併せ持った設計・デザイン活動をしていきたいと考えています。

東京に居た15年の間に、松本の街も再開発を経て、驚くほど様子が変わりました。

曾根先生の事務所での幾つかの都市計画プロジェクトの経験も生かしながら、同時に、地方在住建築家としての視点も大切にして、街づくりにも職域を広げていきたいと思います。まだまだ駆け出しですが、皆様どうぞ宜しくお願ひいたします。



小宮山 吉登

大型連休が終わり梅雨に入るまでのこの頃は、一斉に咲く花々やアルプスの残雪と新緑のコントラストがとてもきれいに映り、一年で一番気持ちの良い季節です。

ところが最近、この季節になると鼻が「むずかゆく」、くしゃみを連発するようになりました。おかげで気持ちのよさも半減の毎日です。あるお施主さんの奥様も私もまったく同じ症状で、「アカシアの花粉症よ」と教えていただきました。

花粉症は車の排気ガス等による大気汚染との相乗効果によりアレルギーが発生すると聞いたことがあります。自分の日々不規則な生活は棚に置き、地球環境が確実に悪くなっているのだと考えてしまいます。

人々の住まう環境が良くなるようにと日々携わり、いつかまた、心身ともにさわやかな五月晴れの季節を過ごせたらと思うこの頃です。



福島 透

「ご愁傷様で～す。バチバチバチ」

それは私が大学を卒業し、よし頑張るぞ!と入所した設計事務所、初日歓迎会で「乾杯!入所おめでとう」に代わる第一声でした。更に「今なら転職できるよ」この一撃でノックアウトさせられたことを昨日のことのように思い出します。あの日から充実した17年が過ぎました。

近頃3D、ウォークスルーなど短時間で一見きれいに見え、クライアントをその気にさせる魔力をもつデジタル機器がもてはやされています。私も時間が無いことを理由にこれらを多様なことがしばしばあります。しかしそこには熟慮という厚みがなく、時間軸というベクトルが欠如しているように感じます。私は建物が人々に永く愛される理由のひとつに、どれだけの時間(エネルギー)がそこに注がれたかが影響していると思います。それは、訪れた人々が、その建物の持つエネルギーを無意識のうちに五感を通して感じとれること。自然の摂理をよく観察し、実験し、模型を作り、スケッチを繰り返したガウディーのように。JIA入会を期に、何事にも一生懸命でいたあの時のように純粹で一途な心をもちながら、技術的な検討を重ねつつこの仕事に取り組みたいと改めて思います。良い意味での「ご愁傷様。バチバチバチ」となることを願って……。



清水 国寿

肩の凝らない抱負をということなので、一言。

建築同様、文章も引用を多く使わせていただきます。かの村野先生も、箱根樹木園休息所で80歳にしてやっと自分のものができた、と思うまで借り物が多くあったと言われたとか……。足し算の建築でなく引き算の建築を。あれも欲しいこれも必要、こうしたら良いだろう、ああすればいいんじゃないかと、建築雑誌を読み漁り、重いカタログを積み上げ、深夜までパソコンの画面をにらみ、魅力的な造形や最新技術を寄せ集めて、これこそがデザインだ、これが建築というものだと自己満足を絵に描いてみても、心の奥底で何か囁く者がいる。あれはしなくていいんじゃないか、これも無くていいんじゃないか。一步間違うとただの手抜きとなりかねないこの囁きと格闘し早く「ソートフルなミニマリスト」の境地に達したいのです。その前に立つと思わず背筋がピッと伸びるような建築を設計したいと思うと同時に、拙でなく巧でなく、軽俊でもなく莊重でもなく、俗にも堅ちず雅にも凝らず、沈痛に赴かず滑稽に走らず、質権に近けれど野暮ではなく、軽妙に近けれど洒脱というではなく……軽快ではあっても尖銭とまではゆかず、浅からず深からず。

こんな建築も世に残してみたいと思っている私ですが、どうぞよろしくお願ひ致します。

# 2003年長野県学生卒業設計コンクール

2003年5月13日、ホテル国際21に於いて「長野県学生卒業設計コンクール」の表彰式が行われました。

## 大学の部

信州大学 工学部 社会工学科

### ●入賞作品

賞	氏名	作品名
金	藤ヶ家さやこ	We live…
銀	芝 景子	アナタハ ココデ ナニヲ ミツケマスカ?
	中井恵利加	
銅	滝沢秀人	ウラの再生
	土屋直人	
特別	川島宏一郎	irony under environmental protection

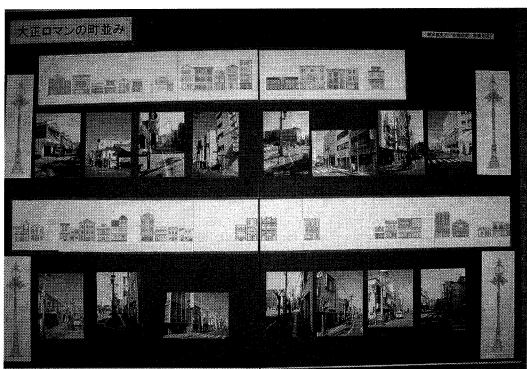


信州大学 工学部 社会工学科／藤ヶ家さやこ  
We live...

## 専門学校の部

### ●入賞作品

賞	氏名	学校名	作品名
金	野溝元樹	国際コンピュータービジネス専門学校 建築CAD学科	上土通り色彩計画
	古旗信昭		
	柳沢恵実子		
銀	山田一徳	国際コンピュータービジネス専門学校 建築CAD学科	松本の街に似合う精神障害のある人が働ける店舗併用住宅
	野村健司		
	脇水花織		
	中村隼也		
銅	永井ともみ	上田情報ビジネス専門学校 建築CAD科	「CHANGE MY LIFE」
特別	染野桂恵	長野美術専門学校 造形科建築デザインコース	Ghibli LAND「ジブリランド」

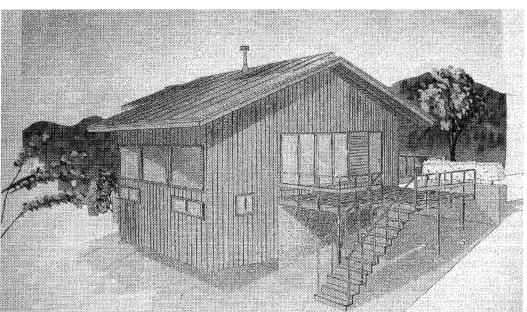


国際コンピュータービジネス専門学校  
野溝元樹／古旗信昭／柳沢恵実子  
上土通り色彩計画

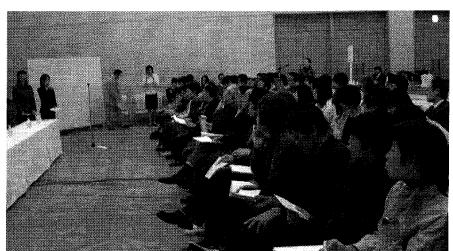
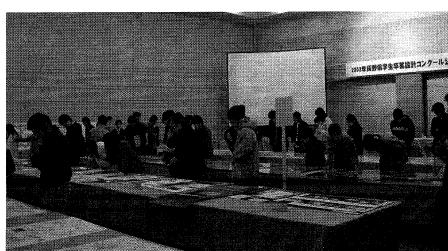
## 高校の部

### ●入賞作品

賞	氏名	学校名	作品名
金	遠山和也	飯田長姫高等学校 建築科	太平宿別荘地計画「歴史と自然に親しむ」
銀	深見大介	飯田長姫高等学校 建築科	木陰家「疲れた心と体を癒す街中のオアシス」
銅	北澤雄太	飯田長姫高等学校 建築科	CHURCH「街のシンボル」
	片桐昌洋	飯田長姫高等学校 建築科	ふれあいホーム
特別	山口 弘	池田工業高等学校 建築科	美術館「Movie Museum」



飯田長姫高等学校 建築科／遠山和也  
別荘 I「木登り階段のある家」



# 2003年 長野県学生卒業設計コンクール審査講評

審査委員長 宮本忠長

建築設計すべてにおいて、コンクール等の審査の概要、結果は、総て公開・公表すべきである。このたび、(社)日本建築家協会関東甲信越支部長野地域会、長野県クラブが主催した「学生卒業設計コンクール」は、その範たるものであった。

参加された学生諸君はもちろんのこと一般学生、更に関心のある市民の何人かが会場に集まり、審査員の発言、討議などすべて硝子張りで一言一句、聞き取れる。

審査とは、透明性が第一条件である。採用案、選外案、その良否、設計姿勢、設計能力、建築技術総合レベル等を含め、参加者がそれぞれの見識の中で得心するのである。

元来、設計という成果された図書は総合であり、美しい言葉を秘めているのだ。

今回の参加者一人一人に、丁寧にプレゼンテーションをしてもらった。本当に感謝している。信大、専門学校生、共にプレゼンテーションの案、設計に取り組む姿勢などたいへん上手に発表された。(これは学生時代から訓練すべき大事なこと)

審査員団も単に限られた時間で設計図書を読みとる上で、たいへん参考になる

ので、ありがたいのである。

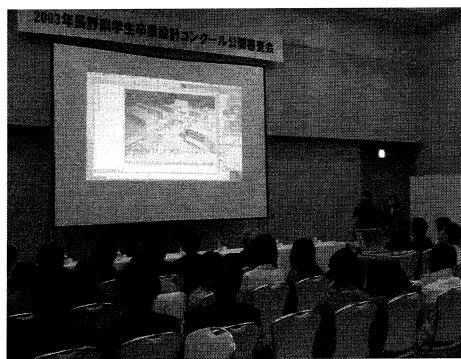
審査の総括を敢えて申し上げると、大学生グループと専門学校生グループでは、若干、思考と建築の組立て方が異なるようだ。前者は、コンセプトから組立て、後者はイメージ(造形)から組み立てる傾向がある。双方、バラン

スがとれてこそ感動を与えるインパクトある建築デザインが生まれるのである。両者が共同チームを形成し、コラボレートしながら、チーフアーキテクトを決め、その人の指揮で制作したら、さぞかしハイレベルのものが生まれはれないか…と率直に思う。

高校生作品は、基礎技術(計画原論、工法等の広いレベル)を十分認識した上で、設計に取り組んで貰いたい。テーマも自由に選び、高校生だからと遠慮することはない。ただ、設計を通じ、周辺環境への視座、景観への配慮、未来への豊かな夢を表現して欲しい。

何れにしても、今回の「長野県クラブ」の試行された審査の公開、透明性の在り方は、市民社会に大きなインパクトを与えるものであって、単に「卒業設計コンクール審査」のみの領域ではなく、広く、公共建築物のコンペティション、プロポーザル審査においても、実現して貰いたいと思う。

改めて、入賞された諸君を祝福申し上げると同時に、参加者諸君に感謝しつつ、講評とさせていただく。



## 記念講演会の感想

川上 恵一



2003年5月13日は恒例になった通常総会と学生卒業設計コンクールの表彰式に続き、午後4時から記念講演会が北川原温氏を迎えて同じ会場で行われた。演題は「ソートフルなミニマリズム」というもので、教条的自慢話かと構えてしまつたがすぐに浅はかな邪念であったと反省した。自分は信州出身で父の仕事の関係上高校まで信州に暮し仲間も多くて愛着があること、また、話が下手で本来は仕事が語りかける方が好きだがなんとか気持ちを伝えたいなどの前置きがあった。演題については、建築の設計という仕事は考えに考え抜いてその上でこそ出てくるわずかなデザインが大切で、その中に宿る深く豊かなものを作りたいということだと話始めた。氏の語りかけるような話と共に沢山用意されていたスライドが上映された。まず中央アジア辺境の地の集落が映し出された。それはイスラム文化圏の都市で、おびただしい日干し煉瓦で作られ、今も作りつけられている建築群である。それらはすべて土の色で、あたかも自然に生えてきたきのこのようない、不思議な形態が連続していた。それとは対照的に女性の衣装が鮮やかに紹介された。それらは特別なことではなく、彼らにとっては歴史に裏打ちされたごく当然の生活のようでもあった。こうした中にある普遍性は氏のデザインの根底にあるものと思われた。

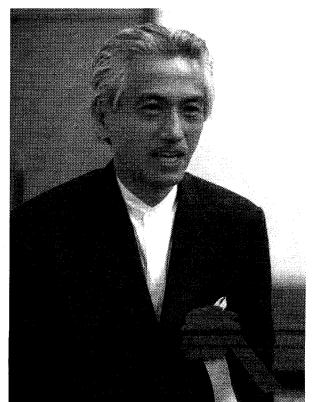
その後氏の設計された作品群が300を超えるスライドを通して次から次へと映し出された。どれにももっと時間をかけて見たくなるようなデザインの密度と魅力を感じたが、スライドはどんどん流れていった。その速さに慣れた頃ようやく

氏の設計プロセス・アイデアのすごさを知ることになった。氏の活躍は専門紙の中で再三取り上げられていて改めて話すことも無いが、一見奇抜と思われる造形の中での用と美の普遍性に納得してしまった。しかも一つ一つの密度が尋常ではないことは少し建築をかじったことのある者なら誰でもわかるものだ。例えば氏の手掛けた佐世保の近海航路旅客ターミナルは、公開コンペで454点の中から厳正に選ばれた最優秀賞作品で、その実力とパワーの上にこそ成し遂げた結果である。それらは松下会長も話した通りまったく誰も真似の出来ない建築でもあった。氏の生の声を通してさらに納得したデザインには次の言葉はなかった。

氏の仕事はどれもが大げさに言えば「命を削る作業」と言わしめるプロセスを通して生まれた作品である。今回当選した稻荷山養護学校のプロポーザルコンペ作品にも触れ、当局の理解不足にやや疑問を投げかけた。だからこそオーナーやクライアントはその辺の事情を理解して欲しい。その為の努力は惜しまないと宣言してくれた。

感動と反省の一時間半は瞬く間に過ぎ、150名を虜にした会場は司会の赤羽総務委員長の冷静な要約により我に返った。その後質問が突然私にまわってきてしまった。信州にあって伝統や風土に培われてきた型の保存と現代の新しい形態とのギャップをどう埋めたらよいかと質問した。氏はそれは大切ではあるが自分の中にも育まれたDNAとしてふえた上でもがき苦しんで出来たものを求めていつも挑戦して行きたい。だからそれらの行為は否定するものではない(が、安易な真似はやめてほしい)と続けてくれたような気がした。

北川原温氏のお話は時代のトップランナーとしての覚悟と宿命を知ることになったが、同時に足元にも及ばない自分自身をも知ることとなった。時間が経って日々の仕事のあわただしさにあって、講演を受けた感動は今も続いている。



## ～学生卒業設計コンクールの審査を終えて～

荒井 洋

去る4月12日、「学生卒業設計コンクール」の審査に初めて参加させていただいた。

今年は審査を公開で行い、これも初めての試みであったらしい。公開で審査をするというのは学生達にとって、自分の作品がどのように評価されていくのかが直に解るので会場は想像以上に熱気に包まれていた。私は全て初めてであったため何がなんだか解らないままに終了していたというのが正直な感想である。そのような状況でも若干感じたことがあるのでひとり言として書かせていただく。

まず審査の方法であるが、公開であるが故に意見の集約の難しさを感じた。第一次審査で残った作品に対して、審査員同士の意見交換を公開で行った方が、もっと、学生達の勉強になったのではないだろうか。

次は作品について。高校生の作品のレベル差に驚かされた。個人の差は勿論のこと学校毎の差があまりにも大きく、工業高校が学生に何を求めるでいるのか、とても気になる所である。親心として少なくとも木造の住宅は一式完成させることができるようにして卒業させたい、とは解らないでもないが、私個人としては発想力やデザイン力が優れている人材が欲しいと考えている。一番重要なのは将来性があるかどうかではないだろうか。先生達は今どのような人材が必要とされ



ているのか考え直す時期に来ていると思う。同じような事を大学生の作品にも感じた。出品作のほとんどはそのまま実施設計に移ってもおかしくないような、まとまりの良い作品ばかりであった。市中心街地に住民を増やすことや既存の建築物を壊すのではなく再利用しようとする考え方には大賛成である。そのために地道な調査や研究を重ねてきたであろう事も評価に値する。しかしそれらの計画が立体になったとき魅力的かというと、そうでもない。外部空間と内部空間の関係も詰めが甘い。もっと自由にもっと毒々しく自分の思いを立体造形として完成させてもらいたい。

クライアントの顔色、予算、基準法、様々な制約に関わりのない学生時代に、自分の思いを爆発させたような作品の出現に期待する。その中で私の心を奪ったのが特別賞を受賞した作品である。発想の豊かさ、デザイン力、ローテク利用等とても魅力的な作品だった。作者本人の性格の危うさは感じるものの、育ててみたい人材である。

## 想う事

昨年の県知事出直し選挙により、現知事が再選されたものの、我々賛助会員に於いては、頭上の暗雲はいつ晴れるともなく、明るいニュースは皆無の状態であります。建設業界を見渡すと、受注額は最盛期の50%前後にまで落ち込んでおり、相も変わらず受注競争の渦の中に巻き込まれております。民間工事のダンピングは日常茶飯事になっており、ここにきて入札制度の悪改革により官庁工事までが非常に安い価格で落札されている現状であり、末期的な症状になってきております。これもひとえに談合問題がマスコミによって非常に悪い事という印象を一般社会に植え付け、建設業界のみを攻撃した結果だと思います。マスコミに携わる人達はもっともっと勉強して記事にしないと、三文記事の週刊誌と同等又は現状はそれ以下でしょう。何も知らない世論が言葉の一部をかじりとて、大騒ぎをしています。この様な世情の中で、いつ倒産してもおかしくない建設業者がますます増えており、大変な時代に突入している事は間違いない状況です。長野県に於いては、山に緑をという知事の一言により、山に植樹をする事によって不況による他産業からの（多くは建設業）余剰の労働力を提供し、緑の多い山と災害防止という一石二鳥を狙った事を推進する様になりました。第二次世界大戦後、山に成長の早いカラマツを植樹しましたが現在になっ

坂田 守夫

て、何にも使えない木が存在する結果になってしまいました。長野県は市街地の緑の量が全国的に見て、非常に少ない県です。もっと真剣に街に緑を多くする事によって、そこに住む生活者（山村に比べて非常に人口が多い）の環境が著しく改善され、世の中の生活空間が潤ってきて明るく健康的な日常を送れると思われます。建物に緑を施す事によって、いろいろな利点が出てきます。皆様方は是非一考して頂けたら幸いです。JIAの活動ですが、本年度も賛助会員一丸となってご協力をする所存です。交流委員会が活発に活動でき、賛助会員の皆様方の企業PR（技術交流会）をより実のあるものにし、お互いにこのいやな世の中をクリヤーしながら、この一年間力を合わせ切磋琢磨して、我々賛助会員がJIAに入会していく誇りになる様な雰囲気になれば、私も安心します。是非先生方のお力を何分にもお借りして、今年一年間頑張つていきたく存じます。ご協力を切にお願い申し上げます。



## JIA長野県クラブ2003年度事業計画

昨年CPD（継続職能研修制度）が実施されたことを契機に地域会の規約改定を行い、更に委員会のありかたを見直しました。1年を振り返りますと、このことにより会員の自主的な事業運営や積極的な参加がはかられるようになったように思われます。中でも、「保存問題長野大会」の盛況や、新しい形で公開して行われた「学生卒業設計コンクール」は、会員・賛助会員の皆さんのお陰で良い結果を残すことができました。これも、常日頃の各委員会活動の主体的な活動によってもたらされたものであったと確信致します。

更に、会員増強については初めての女性会員2名を含む、12名の若手新会員を迎えることができました。会員自らの、地域会に対しての強い所属意識がなければ達成できなかつた結果だったと深く感謝申し上げる次第です。

### 【今年度の基本方針】

さて、昨年のCPD制度実施に続き、日本建築家協会では今年度よりいよいよ「建築家資格制度」の試行をスタートすることになります。そこで、地域会ではより一層社会に対しての認知活動を積極的に展開していくかなければなりません。今まででは、対外的な活動もやゝ消極的でしたが今年度は、建築家の資格を社会的制度として確立するためにも職能を広く市民に理解してもらえるように努力することを基本方針とします。

### 【今年度の重点課題】

基本方針の一環として、次の重点課題を今年度の事業計画として取組みます。

- ①CPDや建築家資格制度などについて、関連団体と積極的に連携を図る。
- ②良い公共建築をつくるための設計者選定問題について、特別委員会を設置して積極的に取組む。（本部、支部の指導・協力を得て）
- ③ホームページ、会報、俱楽部ニュースの充実と情報発信の効率化を図る。
- ④地域産木材振興に関する社会的役割を負うため、特別委員会を設置して積極的に取組む。
- ⑤「愛と情熱の家づくり」第3集の発刊を目指す。
- ⑥アーキテクト・ガーデンの地域会でのあり方について検討する。

## クラブインサイド

### 2003 新たな出発ー会議という名の化物ー 広報委員長 西沢利一

どんな会議でも一緒だが、必ず会議上手、下手な人がいる。

個人的な話でも、いったん会議の俎上に上がり、上手な人の手にかかると大層なことのように思えてくる。会議と名が付くだけで一種の緊張感が支配する中、枝葉末節な事に夢中になると幹が見えなくなる。そんな方向に持つてゆく人が、又真面目な賢人なら、なおさら真剣に耳を傾けてしまう。議論の閉塞状態、しいて言えば会議そのもの、もっと言えば組織の硬直化は、こうやって始まってゆくようだ。こうなってくると、長い会議の終結は、上からの一言でしかもまらなくなってくる。誰でも面倒な事はいやだから、積極的な発言はしなくなる。

我々、県クラブの会議でも、或いは支部にても、必ず持ち出されるのは規定、規約の類だ。自分達で決めたものに自分達で縛られていく。こういった話は説得力があるし、納得しやすいから、なお始末が悪い。確かに大勢の人達を一つの方向に引っ張って行くには、必要不可欠だが、もっと自由に発想できないものか。

委員会活動にしても、人道的な事さえ踏み外さなければ、モンローウォークでいい、枠の中で、もがく事はない。お互いの自主性を尊重して、大らかな気持ちで、恐れることなく、伸び伸びやろうではないか。我々は普利団体と違って、一つの志を掲げて集まっている集団だ。なんの遠慮があろう。会議という名の化物は時として意識さえしないで思わぬ方向に流れゆく。大きな幹を見失う事なく、今年は新たな出発として、自主的な活動をさらに高い所へ、そして積極的に!!

### 広報委員会より

今回の号より表紙を刷新しました。新たな出発です。俱楽部ニュースと合わせて充実したいと思います。ご意見、ご感想をお聞かせ下さい。

### 編集後記

長野県クラブのホームページ(HP)は広報委員会が管理しています。その中に建築家紹介・賛助会員紹介のページがあり、それぞれのHPにリンクしています。  
新しくHPを開設された方やURL変更のあった方は、林(hayashi@h-a.jp)まで直メールでお知らせ下さい。

また、HPについてのご意見・ご要望などもお待ちしております。

## クラブアウトサイド

### 第2回支部総務拡大委員会

5月9日、関東・甲信越支部にて開催。

- ①2002年度の収支決算の確認及び2003年度の予算書について内容報告
- ②2003年度の委員会構成、新委員長・星田真人（松田・平田設計）
- ③入退会者審査 入会者6名 退会者11名を審査
- ④2003年度委員会事業計画 財政の健全化と各規定の見直しを中心話し合った。  
特に今までではっきりとした運用規定がなかった支部地域事業助成費運用規定（案）  
が提案される。「申請書→報告書→常任理事会」という流れを確認。
- ⑤支部部会についても規定（案）提案

（西沢）

### 事業委員会より

#### 開催予告

## 「林 雅子展・長野」

2001年1月9日に逝去されました

林 雅子氏の作品展を

今秋長野で予定しております。

現在関係方面と調整を行っておりますが、  
9月中旬には開催の運びとなりそうですので、  
楽しみにお待ち下さい。

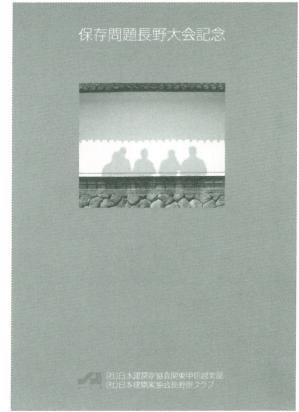


## 「保存問題長野大会」記念誌、報告書販売のご案内

2003年2月22日・23日の両日、  
長野市および須坂市で行われた  
「保存問題長野大会」の記念誌、  
報告書を特別価格にて販売致します。  
ご希望の方は事務局までご連絡下さい。

特別販売価格 記念誌 ¥1,000-  
報告書 ¥500-

保存問題長野大会記念



## JIA長野県クラブの出版物ご案内 あなたの夢を建築家が実現します!!

信州で「家づくり」に

情熱を傾ける建築家を一挙紹介!!

「設計を建築家に頼みたいが、敷居が高い…」とお考えのあなたに、建築家一人一人の「仕事」を写真と文章でご紹介。

家づくりの最良のパートナーに出会える一冊です。



既刊本「愛と情熱の家づくり」定価¥1,429

既刊本「建築家とつくる家」定価¥1,429

お問い合わせ・お求め ..... JIA長野県クラブ

長野市南長野妻科426-1 長野県建築士会館内 TEL:026-232-3897

### 事務局より

名簿データの変更、間違い及び会報の送り先の変更・部数のご注文等御座いましたら、事務局・山本までFAXもしくはメールにてお知らせください。